

## 2018年度人権ゆかりゼミ

### <仲尾ゼミ進行表>

5月 京都の通信使（概説）

7月 高麗美術館（フィールドワーク）

9月 豊臣秀吉の侵略戦争とアジア世界

11月 国交回復－松雲大師と徳川家康

1月 京都五山碩学僧と対馬以酊庵輪番

3月 雨森芳洲の思想と行動

★「朝鮮通信使－江戸日本の誠信外交」（岩波新書）

# 豊臣秀吉の侵略戦争とアジア世界 (1592~98)

日 (文禄・慶長役) 朝 (壬辰・丁酉倭乱) 中 (壬辰朝鮮役)  
1592 1597

## 1. 16世紀末の東アジア

- 1) 中国 (明) の海禁政策 (官営貿易 / 海外渡海禁止) の弛緩
- 2) ポルトガル・スペイン商船の渡来 (キリスト教宣教師同道 → 教会への寄進期待。)
- ・ 大航海時代 (大型帆船) の東南アジア中継貿易  
(ルソン・ゴア・マラッカ・台湾などに総督を置く。 → 琉球王国の衰退)
- ・ 堺商人などの渡海 ← 日本産銀の輸出 / 日本国内の重商主義政策

## 2. 秀吉の侵略構想 - 武家政権としての国内戦争の延長 → きりのない領地拡大、

- ・ 「秀吉、日本国は申すに及ばず、唐国まで仰せつけ候心にて」 (一柳末安宛書状)  
(加藤光泰に、過分の知行《領地》をとらせ、武士を抱えさせていることの補償)
- ・ 人払い令 (人口調査) → 総動員体制、刀狩令 → 一揆対策、海賊停止令 → 水軍へ編成、
- ・ 海外諸国への服属要求 (国内と同一視)

1) 琉球国王 → 薩摩の島津氏を通じて出仕要求 → 開戦時には七千人動員命令。

2) ポルトガル (インド副王) 宛                      4) オランダ (台湾総督) 宛

3) スペイン (ルソン=フィリピン総督) 宛

### ・ 朝鮮

☆ 対馬島主宗義智に朝鮮国王の参洛 (京都での謁見) 要求。 (1588) 見返りに対馬の領地安堵 (保証)。 おく( ) れば渡海して懲罰を加える。

☆ 対馬は「秀吉天下統一祝賀使節派遣」にすりかえて朝鮮に提示 → 実現 → 秀吉は「服属使節」と誤解して了承 → 「征明嚮導」を命ず → 宗氏らは「仮道入道」と説得。

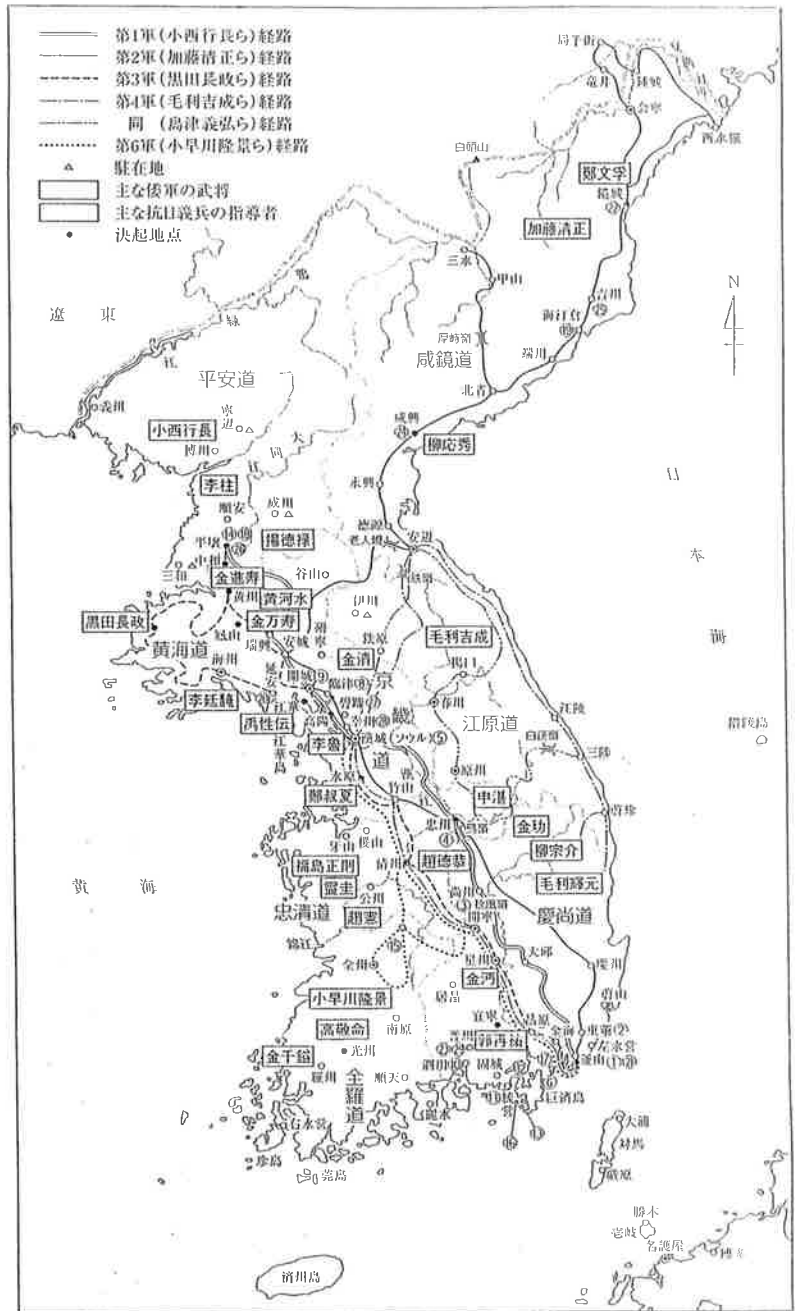
## 3. 渡海開始 (1592) 15万8千人 4. 12釜山奇襲 5. 3 漢城府陥落 → ★

- 1) 朝鮮軍の反撃開始 (平壤戦) 義兵蜂起、明軍応戦 李舜臣水軍の活躍。 畿甲の日本軍は永久占領のつもりで農民に帰農奨励、「いろは」を教へ、南岸への持久戦いりて講和交渉開始。 秀吉は南四道の割譲・王子人質などを要求。
- 2) 講和決裂 (1596) 明王朝は講和使内藤如安の「降表」を受け「冊封使節」を大坂へ派遣。「日本国王に封ずる」 → 秀吉はすぐに再戦を命令。
  - ・ 南西部の穀倉地帯・全羅道の占領を命令。 海岸部に倭城を建設 → 永久占領を企図。
- 3) 秀吉の死により撤退命令を徳川家康ら五大老が指示。

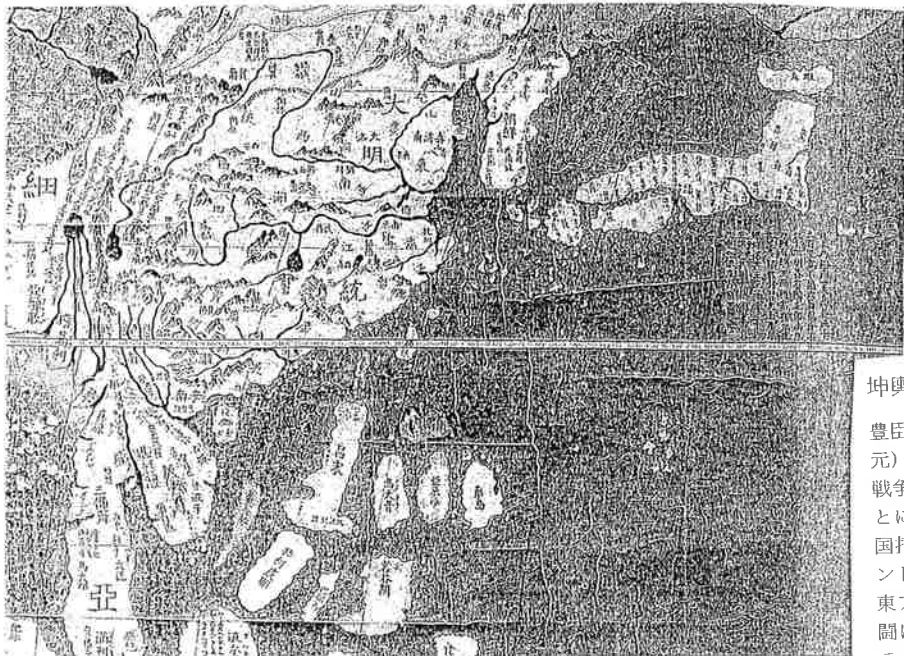
★ 秀吉は即時渡海、天皇の北京動座、中国皇女の降参などを構想。



図 20 豊臣秀吉所持の扇 表面には朝鮮・大明国・日本が描かれ、裏面には中国語と日本語の対照語句が書かれている。



●— 第一次朝鮮侵略関係略図



坤輿万国全図(横写・部分、宮城県図書館所蔵)

豊臣秀吉は「唐入り」すなわち大陸侵攻を企図して、天正20年(文禄元)朝鮮半島に軍勢を送り込んだ。今日「文禄・慶長の役」と称される戦争の始まりである。大陸派兵の目的は自らの「佳名を三国に顯す」ことにあり、同年5月朝鮮王朝の都・漢城陥落の報を得た秀吉はつづく明国打倒を確信し、北京を陥落させたのちにはそこに天皇を移し自らはインド征服に従うとの心算を述べている。秀吉は明国を中心とする既存の東アジア世界を刷新し、新たな秩序現出を目論んだのである。大半の戦間は朝鮮半島のなかで行われるが、戦争の本質は東アジアないし東ユーラシアの枠組みのなかで考えていかなければならない。

#### 4. 戦場の実相—殺戮、略奪、拉致—日本への連行、そして鼻削ぎ。

安養寺慶念（豊後臼杵城主太田飛騨守の従軍僧）『朝鮮日日記』

1597年（慶長2）8月6日と16日、全羅道南原での記事

「十六日ニ城のうちの人数男女残りなくうちすて、いけ取り物はなし。されども少しとりかへして有る人も侍りき。むさんやな、知らぬうき世のならひとて、男女老少死してうせけり（中略）。同十八日ニ奥へ陣替え也。夜明けて城の外を見て侍れハ、道のほとりの死人、いさこ（砂）のことし。めもあてられぬ気色也。（慶念『朝鮮日日記』）

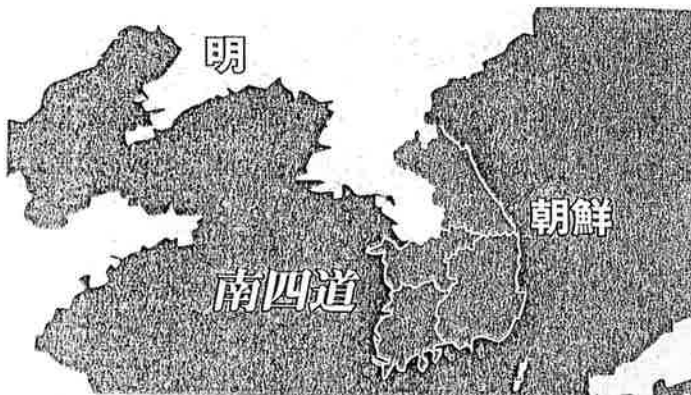
また数日前の8月6日の記事は「野も山も、城は申すにおよばず皆皆やきたて、人をうちきり、くさり竹の筒にてくひ（首）をしハリ、おやハ子をなけき、子ハ親をたつね、あわれな躰、はしめてミ侍る也）」

##### (1) 生け捕りの発生（被虜のひとびと）

- ・「四月十四日 東萊城 斬首三千余級、虜五百余「同廿七日 忠州 刎首三千余級、虜数百人」（以上 天荆『西征日記』）
- ・「四月廿八日 忠清道ウレン 男女僧俗生捕余多来ル。」（大河内『前出書』）
- ・「漢城南方 生捕りのもの二百余」『脇坂記』・「全羅道なしう郡 生捕りたる唐人共三百余、此人数兵糧午のはみ物に此白米大豆を取遣也。」（『元親記』）

##### (2) 生け捕りの理由

- ・「老少男女を論ずるなく、能く歩く者は虜去る。歩くこと能わざる者は尽く殺す。朝鮮所虜の人を以て日本に送り、代わりて耕作を為し、日本耕作の人を以て換替して兵と為し、年々侵犯して、よりにて上国に向かわん」（『宣祖実録』30年10月）
- ・史料2（慶念『朝鮮日日記』）
- ・「朝鮮人捕置き候内、細工仕る者、並びに ぬいくわん、手のきき候女有るに於いては進上有るべく候、召使わるべき御用候、家中改め相越すべく候也」（文禄二年十一月二九日「秀吉朱印状」『鍋島家文書』）



「唐入り」を断念した秀吉は慶長の役では南四道の支配を目的とした

(3) 鼻切りの実情－「耳塚」は誤り

- ・多くの「鼻受取秀吉朱印状」（藤堂高虎、島津義弘宛）
- ・「耳おば切るべらず、ハナきりて献ずべし」（吉田長利『朝鮮太平記』）
- ・「右惣首数都合三千七百二十六、判官ハ大将ナレハ、首ヲ其儘。其外ハ悉ク鼻ニシテ、塩石灰ヲ以テ壺ニ詰入、南原五十余町ノ絵図ヲ記シ、言上目錄ニ相添テ日本へ進上ス」（大河内秀元『朝鮮記』）
- ・「手ニ擬る者ハ悉く切捨たるか、後は鼻計りを取て命を助る様ニと御朱印下されける間、男女を言わず、皆、鼻を斬りたり」（「吉川家史臣略記」）

第1表 秀吉の軍目付が発給した鼻請取状の事例

…1597(慶長2)年…

| 吉川広家           | 鍋島勝茂          | 黒田長政          | 藤堂高虎        |
|----------------|---------------|---------------|-------------|
| 9/1 …… 480     | 8/21 …… 90    | 8/16 …… 23④   | 8/26 …… 346 |
| 9/4 …… 792     | 8/25 …… 264   | 8/17 …… 25⑤   | 8/27 …… 36  |
| 9/7 …… 358     | 8/27 …… 170   | 8/23 …… 7     |             |
| 9/9 …… 641     | 9/13 …… 1551  | 9/5 …… 3000   |             |
| 9/11 …… 437    | 10/1 …… 3369③ | 9/7 …… 85⑥    |             |
| 9/17 …… 1245   |               | 9/13 …… 241⑦  |             |
| 9/21 …… 870①   |               | 9/14 …… 510   |             |
| 9/26 …… 10040② |               | 9/15 …… 457   |             |
| 10/9 …… 3487   |               | 9/17 …… 372   |             |
|                |               | 9/17 …… 244⑧  |             |
|                |               | 9/19 …… 3000⑨ |             |
|                |               | 9/29 …… 223⑩  |             |
| 計 18,350       | 計 5,444       | 計 5,487⑪      | 計 382       |
| 吉川家文書          | 鍋島家文書         | 黒田文書          | 高山公実録       |

(注)

- ①鼻をとった地域…珍原(現、全羅北道長城郡珍原面)。
- ②鼻をとった地域…珍原・靈光(現、全羅北道靈光郡靈光邑)。
- ③鼻をとった地域…金溝(現、全羅北道金堤郡金溝面)・金堤(現、全羅北道金堤市)。
- ④鼻をとった地域…咸陽(現、慶尚南道咸陽郡咸陽邑)。
- ⑤ここでは、首13、鼻25、生捕り2人。内、首には朝鮮の役人(金海上官)の首1つが含まれる。この地域は黄石山(現、慶尚南道咸陽郡西下面と安義面を境する地点)。
- ⑥鼻をとった地域…稷山(現、忠清南道天安郡稷山面)。ここで取った鼻は明兵のもの。1597年9月7日、稷山にて黒田勢と明軍が戦った(稷山の戦い)。
- ⑦鼻をとった地域…清安(現、忠清北道清原郡清安面)。
- ⑧鼻をとった地域…青山(現、忠清北道沃川郡清山面)。
- ⑨鼻をとった地域…開寧(現、慶尚北道金陵郡開寧面)。
- ⑩鼻をとった地域…玄風(現、慶尚北道達城郡玄風面)。
- ⑪黒田長政宛鼻請取状の末尾には異筆で「首鼻数合計5,502 内、明兵の鼻…85、朝鮮役人の首…1」とある。

「八月十六日の注進状、御披見を加えられ候、赤国①の内南原城、大明人楯籠る処、去十三日取巻き、同十五日落居②せしめ、其の方手前、首数四百廿一討捕り、即ち鼻到来、粉骨の至りに候、最前番舟切り捕り③、度々の手柄比類無く候、弥④先手動の儀、各々申し談じ、丈夫に申し付くべき事肝要に候、猶お、増田右衛門尉・徳善院・石田治部少輔・長東大藏大輔申すべく候也、

九月十三日〇(秀吉朱印)

来嶋出雲守とのへ」。